



ホウレンソウにおける主な病害虫防除



ホウレンソウ栽培では、べと病やアブラムシ類、ホウレンソウケナガコナダニなどの茎葉病害虫や、土壌病害の萎凋病、立枯病、株腐病などが多発生して、商品価値の低下や大きな減収を招くことがあります。

このため、これら病害虫の発生には常に十分注意し、早期発見と予防や早期の薬剤防除に心がけてください。

べと病

比較的低温で多湿な条件が続くと発生しやすくなるため、このような天候の時には予防散布を心がけてください。

なお、厚播きや軟弱徒長、排水不良の圃場は、発生を助長しますので、特に注意が必要です。



立枯病、株腐病(リゾクトニア菌による苗立枯病)、萎凋病

比較的高温または高温期に多発生する傾向がみられます。発病歴のある圃場では、播種前に土壌消毒または播種後の薬剤灌注を行う必要があります。

アザミウマ類、コナダニ類、ハスモンヨトウ

アザミウマ類が芯葉に寄生すると、新芽が萎縮して奇形となります。

また、ホウレンソウケナガコナダニなどコナダニ類が芯葉に寄生すると、加害部に小さな穴があき、生育とともに展開葉がコブ状の小突起を生じて萎縮や奇形となります。本葉2~4葉期頃の加害により奇形を生じますので、発生を認めたら早めに防除を徹底します。コナダニ類は、前作の被害残渣や施用した未分解有機物などが発生源となるため、これらの処理を適切に行うことが重要です。

なお、ハスモンヨトウなどチョウ目害虫も、食害で著しい被害となる場合があります。

アブラムシ類



春季や秋季が比較的温暖に経過した場合に寄生が多くなります。新芽や芯葉に寄生すると、展開葉の奇形や萎縮をおこし、また、吸汁被害部にすす病が発生して葉が黒く汚れるなど、商品価値を低下させます。

さらに、アブラムシ類は、モザイク病のウイルスを媒介しますので、施設やトンネルの開口部を防虫ネットで被覆すると有効です。また、黄色粘着シートを設置して誘殺し、薬剤による適期防除の参考にします。

圃場内や周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源となる可能性があるため適切に除草し、常に圃場衛生に努めます。

表1 ホウレンソウ主要病害の主な防除薬剤

(令和5年9月11日現在)

薬剤名	立枯病	リゾクトニア菌による苗立枯病	べと病	希釈倍率または施用量	使用時期/使用回数	分類
タチガレン液剤	○			500~1,000倍液を3ℓ/㎡土壌灌注※	播種時/1回	32
バシタック水和剤75		○		750~1,500倍液を3ℓ/㎡土壌灌注	播種時~子葉展開時/1回	7
リゾレックス水和剤		○		500倍液を3ℓ/㎡土壌灌注	播種時/1回	14
アリエッティ水和剤			○	1,500倍	収穫前日まで/2回以内	P7
ピシロックフロアブル			○	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	U17
ランマンフロアブル			○	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	21
レーバスフロアブル			○	2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	40

注1) 表1の※印、タチガレン液剤の処理には、他の方法もあります。

2) 表1の分類欄にはFRACコード、表2にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ホウレンソウ主要害虫の主な防除薬剤

(令和5年9月11日現在)

薬剤名	アブラムシ類	アザミウマ類	ホウレンソウケナガコナダニ	ハスモンヨトウ	希釈倍率または施用量	使用時期/使用回数	分類
スタークル粒剤	○				6kg/10a播溝土壌混和	播種時/1回	4A
フォース粒剤			○		9kg/10a全面土壌混和	播種前/1回	3A
アドマイヤーフロアブル	○	○			4,000倍	収穫前日まで/2回以内	4A
スピノエース顆粒水和剤		○			5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
ディアナSC		○	○		2,500倍	収穫前日まで/2回以内	5
プレオフロアブル				○	2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
プレバソンフロアブル5				○	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	un
アファーム乳剤			○	○	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	28
カスケード乳剤			○	○	2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	6
リーフガード顆粒水和剤	○	○	○		4,000倍	収穫3日前まで/3回以内	15
					1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	14

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。